

## 第197回 番組審議会

1. 日 時 平成22年11月9日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名  
出席委員数 11名(欠席委員数 2名)

### ○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)

三浦 宏(副委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

中原 祥皓

藤原 保雄

役重 真喜子

吉田 浩次

### ○ 会社側出席者(6名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)

小原 忍(専務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

前田 秀男(取締役編成技術局長)

藤原 銀司(取締役営業局長)

田山 裕明(編成技術局次長兼編成部長)

庭田 康宏(めんこいエンタープライズ 制作部)

### ○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題           めんこいテレビ開局20周年記念 平泉いにしへの散歩道  
                          平成22年10月2日・16日(土) 18:30~19:00 放送

5. 議 事 概 要

今回は10月2日と16日の2回にわたって放送した「めんこいテレビ開局20周年記念平泉いにしへの散歩道」について審議しました。

出席した委員からは「分かりやすく家族で楽しめた」「発掘作業をする人たちの声を取り上げたのが良かった」「平泉の遺跡だけではなく、さまざまな情報を伝えてくれた良い番組だった」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「もう少しメリハリがあっても良かった」「番組で紹介された場所の位置関係が分かる工夫があれば良かった」「世界遺産登録に向けて、県民の盛り上がりにかけているので、問題提起がほしかった」などの意見がありました。

6. 議 事

○事務局

それでは、ただいまより第197回番組審議会を開催致します。

本日も欠席の委員は、村上委員・八木橋委員の2人です。

本日は議事に入る前に少しお時間をいただきまして、本日の議題の番組タイトルにもなっております、開局20周年関連の行事について、弊社の前田よりご説明をさせていただきたいと思っております。

○前田役員

めんこいテレビは、来年の4月1日に開局20周年を迎えることになりました。本当に皆様のお世話になりまして深く感謝申し上げます。これまでの感謝の気持ちを込めまして、今年の10月から再来年の3月末までの1年半を20周年記念事業の期間と定め、特別番組や各種事業を予定しています。20周年のロゴ、キャッチコピーを今回新たに作りました。キャッチコピーは「つながる8ッピースャンネル」で、イメージCMを1年半に渡って放送する予定にしています。

一方では、放送以外の活動として、地域貢献も20周年事業の柱のひとつに致しました。一部ご説明いたしますと「めんこいアナのお話隊」ということで、県内の幼稚園や保育園を当社のアナウンサーが月1回訪問して、子ども達に読み聞かせのボランティアをしたり、以前、審議会の議題になった番組でもご紹介した「松尾鉦山跡の植樹祭」に、会社として参加することを予定しています。

本日も審議いただく番組は、そういった流れの中で作られた番組です。よろしくお願い致します。

#### ○事務局

前田役員、ありがとうございました。

今回の議題は10月の2日と16日の土曜日に放送されました「めんこいテレビ開局20周年記念 平泉いにしへの散歩道」です。

本日は編成技術局次長兼編成部長の田山とディレクターの庭田が出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願い致します。

#### ○中村委員長

それでは議事に入ります。田山さんと庭田さんから、今回の番組の背景などについての説明や感想をお願いします。

#### ○田山部長

めんこいテレビは開局20周年キャンペーンに10月から入っています。この10月にはレギュラー番組の「あなろぐ」のスペシャルを30分拡大して放送したり、ミニ番組をスタートさせました。キャンペーンの一環として、15秒のキャンペーンスポットを制作しましたが、最近CM枠がかなり混んでおりまして、なかなかキャンペーンCMを見ていただける機会がないという状況にあります。

今回審議いただきます「平泉いにしへの散歩道」は、これから開局20周年を謳うにあたって、そのスタートを切る番組として位置づけています。自社制作の番組といいますと、単発系の番組はどうしても土曜日、日曜日の午後帯の放送になることがローカルテレビ局の都合上多いのですが、特別感を出すために、今回はレギュラー番組の「山・海・漬」の枠の中での放送を試みました。

めんこいテレビでは、これまで平泉を題材にした番組をいろいろと制作してきましたが、今回は開局20周年のキャンペーンのスタートを飾る番組として、平泉を取り上げることにしました。平泉については切り口がいろいろとありますが、今回は来年の世界遺産登録に向けての動きと、めんこいテレビとして平泉を応援していく姿勢の2つの大きな柱と言いますか“考え方”を基に、番組を企画しました。放送時間帯が土曜日の18時半からということも考慮して、もっと平泉文化を易しく身近な形で県民に知っていただきたい、家族の会話があったとしたら、そこに番組の内容が伝わるような易しさや、柔らかさをもった内容にしていきたいと考えました。どうしても出てしまう「お勉強させられ感」のようなものはできるだけ避けて、現在、平泉に住んでいる人たちの息遣いのようなものを、押し付け感なく、肩が凝らないように伝えたいといったところを狙っています。平泉に詳しい方には内容的に物足りなさが残ったかもしれませんが、内容的には平泉の文化遺産の構成6資産をしっかりと盛り込み、土曜日の18時半からの放送に臨みました。

ディレクターは7月の番審で良い評価をいただいた「わがまま、気まま 旅気分」を制作した庭田が担当しましたので、内容に関しては庭田からお話させていただきます。

#### ○庭田ディレクター

今回は約3日間のロケ日程でした。ロケの前に平泉の文化遺産と共に町の見所、味所を紹介するというところでいろいろとリサーチしました。弊社ではこれまでも平泉を紹介する番組は何本か制作しておりまして、今回の番組ではなるべく紹介されていない物、店、また名の知れた物でも新しい作品や取組みを取り上げることが出来ればと思い制作しました。

取材して分かったことは、町の歴史は文化遺産だけではなく、町で暮らす皆さんの生活や商売も次の世代につなげていこうという、将来を見据えた意識が感じられたことでした。個人的には、平泉はまだまだ進化する町だと感じましたので、これからの発展が楽しみだなと思いました。

#### ○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていききたいと思います。

今日は役重委員からお願いします。

#### ○役重委員

まず、20周年大変おめでとうございます。開局が平成3年ということで、私と菅原委員が最古参です。私が岩手に来たのも平成3年でしたから、正に同じ時間を歩いて来たのだなと思い感激しました。

その20周年の冠を博した番組ということで、今のご説明を聞きまして“なるほどな”と心当たりがありました。まさに柔らかく、分かりやすくということが表現された番組でした。

私が見たのはビデオテープでしたが、たまたま家族で一緒に見ていまして、普段、平泉といってもわりと見慣れていて、いつもなら画面からさっさと離れて行く息子が、最後まで見ていました。時間的にはちょうど良かったと思います。そういう部分では番組作りが成功していたと思います。

良かったなと思ったのは、千葉アナウンサーの雰囲気もあると思います。駅から歩いて散歩という形で始まって、通常は遺跡の方に集中するんでしょうけれども、まずは商店街からという作りに、自然に見ている者が乗せられるという流れがあったと思います。

遺跡の発掘現場で作業員の方にお話を聞くところがすごくいいと思います。発掘作業をやっている方は日当稼ぎの作業員のイメージとは違って、ものすごく好きな人たちが集まってきます。私も教育委員会で、そちらの方の現場にいたことがあるのですが、私どもの担当者よりも知っている、というような人たちが本当に好きで集って来ます。そういう方々にマイクを向けてお話を聞くというのは、なかなかいい事だと思って関心したところでした。

番組を見て一番分かりやすかったことは、今回の世界遺産の登録について、日本人として何を素晴らしいと打ち出して、どこがなかなかユネスコの人に理解されない部分なのか、ということでした。そういうものを端的に表わしていたのが清衡の「中尊寺供養願文」で、供養願文をナレーションで耳から聞いて、さらに文章として文字で出していた事でした。そこまで踏み込んでなかなかテレビで見る機会がなかったせいか、それを聞いていた家の息子が「これ、すごく良い事言っているね」と感想を述べました。中学2年生、生意気にも、分からないなりにすごく良い事を言っていると思っただけです。「鐘の音が大地を揺るがすときに安らかに・・・」それが仏教思想に基く考え方で、平和、命の平等といった部分を、本当の平泉の価値として前面に押し出している部分だということを、改めて見せてもらった所が、分かりやすかったと思いました。

余談ですが、藤原清衡、基衡、泰衡といっても分からないですよ。息子が社会の先生から教わったことは「きもひやす」というそうです。清衡、基衡、秀衡、泰衡というような覚え方があるそうです。

大変良い番組を見させてもらいました。

○中村委員長

藤原委員お願いします。

○藤原委員

感想はいつものように一番最初に話した方がいいですね。(笑) 役重委員に、もう語り尽くされたという感じがします。(笑)

「易しく柔らかいところを狙った」まさにそんなトーンの番組でした。千葉アナウンサーは地元ですよ。だからピッタリしているというか落ち着いた雰囲気、そんな事も伝わってきました。ナレーターの高橋アナウンサーのトーンも、非常に落ち着いていて好感をもてました。

平泉を知っている人は、もう一回おさらいをして認識を改めるという番組でした。馴染みが薄い人にとっては、入門篇として非常に分かりやすく解説してくれた番組で、非常に良かったです。役重委員もおっしゃっていましたが、私も現場で発掘作業をしている方々の生の声を取り上げた番組は見た事がなかったので、その辺りも勉強になりました。

ただいくつか気になった点、要望があります。お鮎屋さんとか漬物屋さんとか出てきましたが、あえて食べ物屋さんを出さなくてもいいじゃないか？そんな印象をもちました。必ず出てきますよね、町の紹介の時は食べ物屋が出てきて、ちょっとそこは違和感がありました。

秀衛塗りの店で南部鉄器とコラボしてやっているというのは、全く私は知りませんでした。あのお店の紹介は良かったと思います。

この番組で監修をされた大矢さんは、かつて番組審議委員の時に「実は平泉は分からないことだらけなんだよ」とおっしゃっていたのが記憶に残っています。要望として、謎だらけの平泉文化、実はこんなに分からない事があるのだという事も、どこかで取り上げてもらえればいいなという印象を持ちました。

○中村委員長

それでは、斎藤純委員お願いします。

○斎藤純委員

コンセプト通り、分かりやすい言葉で内容がしっかり伝わっていたのでいい番組だと思います。

僕は千葉アナウンサーのファンなので、番組に出てくれるだけで有難いと思っています。その千葉さんの話し方が良かったです。全然声を張り上げないで普通のしゃべるような語り口で、ずっとやっていたよね。どこまでがディレクターが書いたコメントで、どこからが彼女の感想なのかなあといいながら、しっとりした語り口を楽しんで拝見しました。

地元出身の人だから言える「子どもの頃に遊んでいた地面の下に、こういう物があったんだね」、ああいうコメントは凄くいいですよ、説得力があります。役重さんもおっしゃいましたが、司馬遼太郎も何かのエッセイに、番組で紹介されたおばさん達のような発掘現場で働いている方々が、日本の考古学を支えているだということを書いています。「アルバイトで募集するんですが、大抵はまず高校は出ている。高学歴である。しかも日本人だからということもあるでしょうけれども、盗まれる心配をしなくてもいい。チェックをしなくてもいい。あれがエジプトとか中国だったら地元の人たちを雇って発掘調査というのは大変なんだ。」ということを書いていました。そういう人たちの声を聞いたというのも、珍しいところに着眼したと思いました。

一箇所気になったところは、無量光院の場面のBGMがNHKの旅番組で使っているのと同じ曲でした。あれはちょっとうかつだったな、という感じがしました。

#### ○中村委員長

それでは、菅原委員お願いします。

#### ○菅原委員

番審の委員にはいろいろ役割分担というものがあると思います。皆さん今回はお褒めだろうなと思いますので、私は別の観点から失礼してお話しします。今、齋藤純委員が言った事と逆になりますが、千葉絢子アナは毛越寺の正面の門から200～300メートル前の人ですよ。写真屋さんの娘さんです。ナレーションは高橋裕二君。僕は2人ともデビュー当時から好感度が非常に高く応援しています。

その2人があまりにもすんなり行き過ぎているのに、ちょっと誉め殺しのようなものを感じます。近衛はなさんが別の番組で遠野を訪問しましたよね。ああいう感じの方が客観的に知らない所に行って驚く方がよいような気がします。千葉絢子さんは知り尽くしています、

そこで遊んでいた人ですからね。平泉で駅から歩いて、本当は彼女はそんなに感動していないはずなんです。結局、演技をしなくてはいけない。自然にしゃべっていたと言うけど、やっぱり知らない人を起用した方が良かったのではという気が僕はします。

良いといえばいい。でも、裏目に出たという見方もひとつありまして、何か変だなと思ったのはナレーションです。高橋裕二アナは人も品もいい。でも、その語り口があまりにも誉め殺しのような感じで、もっとクールに客観的に話した方が威厳があつていいと思います。

藤原文化を語る番組なのに、何かものすごく観光的で、美味しいものを紹介したと言われても、それをちやほや誉め殺しにしてしまつては、せつかくの番組が低級になってしまうような気がします。もう少し問題点も指摘する必要があつたのではないのでしょうか。CGを使って再現映像を見せていましたが、実際に行くとなんもありませんから「残念ながら現存するものは何もありません」と説明するとか、そういう問題点があるわけです。そこに触れないで漬物まで良いと言われると、そんなことはどうでもいい話です。漬物なんかどこにだってありますし、驚くほどのことではありません。

音楽も僕は気になりました。全般に何か中華音楽のようなものが多かつたですね。二胡を使った音楽かな？音楽がちょっと合わなかつたような感じがしました。

番組は良いといえば良いです。でも、私だけの感想かもしれませんが、千葉絢子アナが地元の平泉出身であることが気になりましたし、高橋裕二アナのナレーションが、歯が浮いたような感じで、あそこまで優しくやられると、ちょっとやっぱり誉め殺しのような感じを受けました。視聴された皆さんはすごく楽しんだと思います。ですけど、その点、僕の間接からすると良かれと思ったことが裏目に出たなという感じで見ました。近衛はなさんの遠野の番組がすごく印象に残っていたものですから、ああいう感じの方が良かったのかなという気がしました。もちろん、良い部分はたくさんあるので、あとは皆さんにお任せします。よろしくお褒めのお言葉をお願いします。(笑)

#### ○中村委員長

菅原委員には役割を果たしていただき、ありがとうございます。(笑)

それでは、斎藤雅博委員をお願いします。

#### ○斎藤雅博委員

20周年記念キャンペーンと世界遺産登録応援キャンペーンもやられていたと思います。



今回の番組はその一貫だと思います。実は世界遺産は来年に控えていますので、地元を盛り上げるという意味では平泉の遺跡をしっかりと取り上げているほか、さまざまな情報を伝えてくれる非常にいい番組だったと思います。

先ほどの前田役員の説明の中で地域貢献というのがありました。地元の放送会社がこういう形で地域を応援するという姿勢は、非常に高く評価してもいいと思います。私は3年ほど前に子供と一緒に平泉に行きました。3年前はまだ「お休み処」はありませんでした。柳之御所もあれほど整備が進んでいませんでした。改めて今回の番組で整備が進んだなと思いました。柳之御所は政庁跡ということで、いろいろな遺跡も出ているようなので、これからどんな形で整備されていくのか非常に期待して見ました。

平泉の遺産は現存する建物がありません。柳之御所、無量光院、観自在王院。それがひとつの特徴になっていると思いますが、その辺がしっかり画面を通じて分かりました。それに比べて浄土庭園がけっこう復元されていて、当時の姿を見せてくれたと思いました。特に、上空からの映像は、全体が分かって非常に良かったと思います。

先ほど役重委員がお話していましたが、「中尊寺建立供養願文」は大矢先生の現代語訳が出ていました。私にも非常に分かりやすく、供養願文をあのよう形で聞いたのは初めてでした。本当に崇高な考え方だと感じましたし、どんどん広めてもいいと思いました。

菅原委員から千葉アナの話が出ましたが、確か2年ぐらい前に同じように千葉アナが平泉を紹介する番組があったかと記憶しております。その他にも平泉といえば千葉アナウンサーと相場が決まっているという感じがしています。今回は個人的な思い出話が出てきて、それはそれでいいのですが、私も菅原さんと同じように違う方でも良かったのではないかと思います。私も近衛はなさんが頭に浮かびました。地元向けというのであればいいのでしょうけれど、全国的に発信する場合には、むしろ県外の方の方が新鮮な見方をしてくれて、地元の我々が気が付かない価値を発見してくれるのではないかと思います。そういう意味で千葉アナウンサーが悪いというのではなくて、あまりにも決まり過ぎていて別の方でも良かったのでは、と思いました。

今回、最初の説明にもありましたが網羅的な説明の番組になったと思います。柳之御所跡には遺跡がいっぱいあるでしょうし、当時の暮らしぶりも想像できると思います。そういう番組も次はぜひ作っていただければと思います。

地域貢献という意味では非常にいい番組だったと思います。

○中村委員長

中原委員、お願いします。

#### ○中原委員

千葉絢子さんの登用については、私の前の方までは2対2ということでした。私はどちらにも軍配をあげたくないので（笑）、千葉さんについての発言は控えたいと思います。

確かに町に暮らす人々の姿を紹介した、肩の凝らない番組でした。今までの平泉の報道に関するものは、私の感想ですが、比較的、硬めというか真正面から取り組んでいたというメディアの状況があります。テレビも新聞もストレートに前向きだったという意味です。町に暮らす人々の姿、肩の凝らない、家族に親しまれる視点の番組作りは、それはそれでいいなと思いました。平泉の番組というと、硬めという印象をもっていたので、ある意味、肩透かしを食ったという一面はありました。だんだんと見て行くうちに、こういう捉え方もいいのではないかと思うようになりました。同じテーマが何回も続く場合、違う視点で、変えていかななくてはならないと思います。この番組はひとつの試みとして私は評価したいと思います。

もうひとつは当時の模様を描いたCG映像で、見飽きるほど見た場面です。他にあるかと言われれば、無いのであれでいいとは思いますが。新聞などと違って、テレビでは動く絵があっていいですね、羨ましい部分でもあります。そういった要素をひとつひとつ組み合わせていって、新しい物も従来の物も雑多に入った番組になっていました。

関心をしたのは、平泉駅が東北の駅100選の中に入っていることです。東北の駅100選のうちに岩手の駅はいくつ入っているのか？機会があったら教えて欲しいと思いながら番組を見ました。

世界遺産登録について、平泉は何が何でも認められたい、いまさら引っ込みがつかないという状況の中で運動している状況なのかもしれませんが、「平泉の意義は何か」この番組を見ながらもう一度考えさせられたように思います。10月30日にシンポジウムの1時間番組をやりましたよね。あれは絵が動かないけれども、あれはあれで良かったと思いますし、この番組を1時間じっくり見させてもらって、平泉の意義というものを改めて再認識しました。シンポジウムの番組は千葉絢子さんがコーディネートをしていまして、大矢先生も出ていたので何となく見入っていました。確かに画面があまり動かないけど、黙って聞いているとやはり「平泉は魅力ある遺産だなあ」ということを感じさせられました。

平泉については新聞、そしてIBCラジオとめんこいテレビが取り上げていました。テレ

ビ岩手も三枝さんが出てきて郷土芸能を取り上げていましたが、郷土芸能と平泉という捉え方をした番組で、それもひとつの視点だなと思いました。文化財というのは評価が分かれる事もありまして、人によっては無関心ですし、県民運動といってもなかなか乗りにくいです。かと言ってやらないわけにはいかない。前回登録に落ちただけに、テレビの力、メディアの力で新たなアピールの仕方を考えて欲しい。前回落ちた時にどのような報道をしたのか？メディアには、何か欠けるものがないか？探して欲しいと思いました。

再来年の3月までが20周年の期間だそうですから、その間に平泉は決まっていますね。そのタイミングを見計りながら、登録されても、されなくても、めんこいテレビも頑張ってくれたなあ、そんなものを歴史に残していただきたいと思います。

この番組は30分の2回シリーズでしたが、スタートとしては思いがけない切り口で入ってくれたなど評価はしたいと思います。シンポジウムの番組は、僕は見る事が出来たのでいいのですが、今後どういう切り口のものを30分で展開してくれるのか？という楽しみを抱かせた初回の番組であったと私は評価をしたいと思っています。

#### ○中村委員長

では、東海林委員お願いします。

#### ○東海林委員

こういうリポート風の番組は、問題提起をしにくい番組だと思います。番組審議会で意見を申し上げるのもなかなか難しい類の番組です。そういう前提で、何か私なりの意見を述べるとすると、今回の世界遺産登録運動をきっかけに、平泉あるいは岩手県全体の地域振興に結びつけていけるかどうかだと思います。今、一番、私自身も興味があるのが、地域の振興とか商品開発です。古いものがそのままあるのだけれども、それをそのままではなくて新しいものに形を変えて、地域から発信していくということに非常に興味があります。今回の番組の中でもいろいろな古いものを大事にしながら、形を変えて新しく発信していきたいということが随所にありましたので、そういうところを非常に興味深く拝見しました。

今の岩手県がもっている、平泉がもっている世界遺産的な価値というものを、もっと私たちが盛り上げて行くためにどうしたらいいのか？というような問いかけが番組の中にあつたら、もっと私たちの心の中に残るのではないかと思います。今回の番組は見終わった後に、「そう、良かったね」で完結されています。「そうか、世界遺産登録、忘れていたよ」という

形で終わってしまう感じがありました。そういう意味で、問題提起があっても良かったかなと思いました。

ディレクターのシナリオなのか千葉アナウンサーのつぶやきなのか分かりませんが、「伝統工芸も生き物なんですね」とおっしゃっている一言があって、それは番組を見た後も心の中に残りました。古いものをそのまま残すのではなく、そこから新しい形を生む、伝統工芸も生き物なんです。まさにそういう形で世界に発信していけるものがあつたらいいのになと思いました。

めんこいテレビのホームページにある「ウェブ版週間平泉ゼミナール」というのが面白いです。でも、残念ながらもう終りなんですね。クイズを通して平泉のことを勉強しようという、とても良い企画でした。世界遺産登録に向けてもっと身近なところから盛り上げて行かないと、なかなか難しいと思います。平泉、一関のあたりでは、もしかしたら盛り上がっているのかもしれませんが、盛岡にいて全然そういうことがなくて、このままじゃ前回と同じようなことになってしまうのではないかと、危機感を感じます。「ウェブ版週間平泉ゼミナール」のような形で盛り上げて、私たちも関わり合いながら世界遺産登録に向けて動いていけたらいいなと感じました。

#### ○中村委員長

久慈委員お願いします。

#### ○久慈委員

私は千葉アナに賛成です。住んでいる人が案内するのが非常にいいと思っていましたが、言われてみると、そういう考えもあるのだなと今日は思いました。私は素朴な「こうだよね」という一言に説得力を感じるので、住んでいる人が案内した方がいいと思います。

東海林委員もおっしゃっていましたが、世界遺産登録の運動の盛り上がりは盛岡は少ないということであれば、私の住む二戸は平泉の「ひ」の字もないという状態です。むしろ「御所野遺跡の方はどうなのか」という話題の方が多いため、これはちょっとまずいだろうと思っています。平泉は前回落ちた時の方が盛り上がり話が出ました。今は全然話題が出ないので、県北は関係ないと思っているところがあります。もう少し皆で県全体の意識を盛り上げるような、いろいろな事をしていかななくてはいけないと思っていたところだったので、こういう番組を作ることは私も大賛成です。やっていくべきです。シリーズ化するのもいい

でしょうし、ぜひ今後も積極的にやっていただければと思います。

今は平泉の話題よりも北上山地の国際リニアコライダー計画の誘致、あちらの方の話題が出ます。新しいものに敏感になっていて、ずっと平泉、平泉とやってきたんですが、一度ダウンしたところをまた盛り上げるのは難しいと思います。さらに青森まで新幹線が行くので、そういうことも含めて総合的に紹介する番組がいいのではないかと考えています。

今回の番組はそういった意味では、今まで見てきた平泉の番組とは全然違う視点で作られていて、遺跡の発掘とか、けっこう知らないところがあって、楽しく見る事が出来ました。同じ時間帯の「山・海・漬」らしいというか、あの番組内でのやり方としては良かったと思います。ぜひ、平泉を取り上げた番組を続けていただければ有難いと思います。

#### ○中村委員長

それでは、吉田委員お願いします。

#### ○吉田委員

ほとんど言い尽くされて、私が感想を申し上げようと思っていたことは大体触れられておりましたが、私なりに感じた事を、ダブリますけれども申し上げたいと思います。

開局20周年の記念に大変相応しい番組だったというのが第一点です。番組を見てどんなことを感じたかという事ですが、まず、平泉というと中尊寺、毛越寺というだけで今まではそんな認識しかありませんでした。ところが番組を見て「何だ、これだけたくさん見所があるのか」と思いました。たくさんの発見があったというのが第一点です。

番組を見て、私なりに強く感じたことは、何しろ穏やかでゆっくりとしていて何か番組そのものに上質感を感じたことです。何で上質感があるのか？考えてみると、そこには千葉絢子アナウンサーの存在がありました。もちろん、皆さんのお話をお聞きしますと賛否両論ありますが、私は千葉絢子アナが地元に着いたからこそ、発言内容が非常に響くものがあったのではないかとつくづく感じました。

何よりも良かったのは、番組全体を通して平泉の文化というものを余すことなく紹介してくれたことです。家族と一緒に見ていましたけれども、分かりやすいということ家族は言っていました。先ほど説明がありましたが、何よりも分かりやすさだと思います。あんまり難しいものを作ってしまいますと「なんだ」ということになりますが、とても分かりやすく解説されていたということをお家内も言っていましたので、“なるほど”と思いました。

もう1点良い所は、今の平泉の見所の紹介です。いろいろな意味で食べ物の紹介はどうか？というご意見もありましたが、番組を見て一番大事なことは県内の皆さんが、「ああいう所もあるのか、ああいう食べ物もあるのか。じゃ、行って見ようか。」こういうところを支援する、みんなでそれを応援しようという気運に繋がることだと思います。そういうことが番組のもつ大事なところだと私は思います。

そういう視点から見て、ひとつだけ最後に申し上げたいことがあります。実は私は非常に方向音痴の人間です。番組全体を見ての感想ですが、毛越寺、中尊寺など紹介されたところの平泉の駅からの位置関係や距離感が、何か図表のようなものに描かれて、「歩いてこれ位かかりますよ」「こっちの方向ですよ」といったような、ひとつの図式みたいなもので表現してもらえれば良かったと思いました。

いずれにしても惚れ惚れするほどの内容で、開局20週年に相応しい番組でした。

#### ○中村委員長

三浦副委員長、お願いします。

#### ○三浦副委員長

本当に丁寧な作り方で好感をもちました。女性の千葉アナウンサーはあまり若すぎず、落ち着いた感じで、もちろん綺麗な女性で良かったと思っています。

番組タイトルが「平泉いにしへの散歩道」ということで、そのタイトルが良かったのではないかと思います。「道」とか「街」という言葉に魅かれるものが元々あります。斎藤純委員が編集されている「街・もりおか」は、仙台にいた時からずっと読んでいました。もうひとつ、「音」があっても良かったかなあと感じていました。今朝、NHKのハイビジョンで「京都の音」というタイトルの番組があり、これはタイトルに魅かれてたまたま見たのですが、なかなか良かったと思います。今回は「道」を含めたタイトルが、非常に重要だなと私は思いました。

今回は2日、16日と二部構成でしたが、それぞれ丁寧な作りをしていて感心しました。平泉に関していいますと、燦然たる仏教文化というものと、もうひとつは奥州藤原氏の歴史と2つ大きなテーマがあると思います。両方とも興味深いですが、そもそも平泉文化とは何かという話と、奥州藤原氏はどこから来たのかという2つを取り上げていただいても良かったのかという勝手な思いもあります。ある所で、平泉は陸奥の国、かつて蝦夷の住んだ陸

奥の国の中心にあったという話があって、津軽地方の先から福島白河に至る、ちょうど中間にある。従って中世、平安時代に奥州藤原氏が平泉に拠点を設定したという話があります。平泉に関する歴史についてもう少し知りたかった。改めて整理していただいても良かったかなと思います。

菅原委員から漬物の話が出ましたが、平泉文化は仏教文化ですし、奥州藤原氏の拠点ということもあるので、観光ということで平泉中心になりますと、漬物が入ってくる辺りでちょっと焦点が少しボケる嫌いもなきにしもあらずかなと、私も正直思いました。観光そのものであればもっと範囲を広げれば風鈴とか、鉄を意識したものを入れてもいいし、他の地域から見れば、もっと広い視点で岩手を見ても良かったかなと思っています。ある方と話していたら、平泉に行く「食べるものがない」という話が出ました。美味しいものはたくさんあるわけですけど、全国ブランドの食べ物という面ではまだアピールが足りないということもあるのでしょう。本当に俗っぽく観光を意識するのであれば、区域を前沢辺りまでもう少し広げれば、前沢牛もあります。そこはやり過ぎれば、単純なお楽しみ観光番組になってしまう可能性もあるので難しいのかもしれませんが。そんな風に考えながら見ていました。

2部構成の丁寧な作り方で、非常に好感を持てた番組というのが、私の感想です。

#### ○中村委員長

まず開局20周年記念らしい良い番組でした。特に映像がとても綺麗でした。私は技術屋ということもあって特にハイビジョン映像をどうやって綺麗に映してくれるか、いつも興味をもって見えています。その辺をよく効果的に映していました。時折出てくるCGとよく融合していて、いつの間にかCGが変わっていて、こんな建物があったのかなどと思わせるぐらいの良い絵の作り方でした。非常に丁寧に作られた番組だったなと第一印象として感じました。

先ほどから皆さんが誉めておられるように、平泉の地域の様子を大変ゆっくり、ゆったり描いていました。千葉アナウンサーの人柄なのかテンポなのか、番組全体がゆったりしてだんだん眠くなってくるような、眠気を誘われるようなところも時折ありました。作りにもう少しメリハリがあっても良かったと感じました。

平泉の中尊寺、毛越寺のシーンと同じような時間をお鮎屋さんとか漬物屋さんに割いていますが、私に言わせるとあの辺は刺身の“つま”とかご飯の“あて”のようなもので、そこが同じような割合でいいのだろうか？と思いました。これは作っている方の意図なのでしょう

うか？最初の説明で、時間帯を考えてということがありましたので、「山・海・漬」の時間帯ということでそういう風な割合にしたのでしょう。私の気持ちとしては中尊寺や毛越寺とか平泉文化についてもう少し深掘して、その辺をメリハリがあるような作りにすれば、平泉を紹介する番組としても非常にいい番組になったのではないかと感じました。

せっかくあれだけいい絵をたくさん撮っていますし、平泉については地元局として非常によく調べているわけなので、今度は真正面から平泉文化に取り組んだ番組を作ってください、NHKとか他の局に負けないような、さすが地元だなという番組を作って、1時間ぐらいにして我々に見せていただけたら大変誇れる番組になるのではないかという感じがしました。今後、そんなことも20周年記念の期間に試みていただければ大変ありがたいと思います。

○中村委員長

委員の皆様、言い残したことや聞き忘れたことなどありませんか？

ないようですので、続いて欠席委員の方からのレポートを事務局からお願いします。

○事務局

今日はございません。

○中村委員長

それでは、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は11月20日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ番審りポート」として放送いたします。

12月は恒例によりまして番組審議会は休止となります。次回は年明け1月11日の開催はとなりますので、よろしくお願い致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。



7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\* 平成22年11月10日(水) 産経新聞 東北版

●

**番組審議会**

岩手めんこいテレビ

岩手めんこいテレビの第197回番組審議会(中村慶久委員長)が9日開かれ、「めんこいテレビ開局20周年記念 平泉いにしへの散歩道」を審議した。同番組は、10月2日と16日の2回にわたり、通常の情報番組「山海漬」(30分)の枠内で平泉文化を紹介した。

委員からは「分かりやすく、家族で楽しめた」「発掘調査に携わる人の声を取り上げたのはよかった」など評価する半面、「もう少しメリハリがあってもよ

かったのではないか」との指摘もあった。

\* 平成22年11月20日(土) 午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ 番審りポート」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし